

2018年12月9日(日)朝10:10  
12月第2共同主日礼拝式説教

主の待降節第2、役員会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：主がわたしを遣わされた

聖書：ルカ福音書4章16～19節

<口語訳>

新約聖書89～90頁

ルカ福音書4章16～19節

<新共同訳>

新約聖書107～108頁

ルカ福音書4章1～19節

<新改訳第3版>

新約聖書114頁

ルカ福音書4章16～19節

<塚本訳>

新約聖書 ～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇新約聖書の**ルカ福音書**は、**神の民の救い**を神の福音として告げた書です。

◇本日は**クリスマス待降節第2主日**です。

⇒「**ルカ福音書4章16～19節**」が、牧会手帳で指定された「**待降節第2主日**」の使信で、会堂(シナゴグ)で「**主**」が説教された箇所です。

⇒その日は、土曜日の安息日で、ユダヤ人は、一同に集まり、礼拝をしており、ユダヤ人の慣習では、最初に旧約の「**申命記**」が朗読され、2回目の朗読の時は、預言書が朗読されることになっていましたが、その日は、旧約のイザヤ書が朗読されることになっていました。

⇒「**主**」は、聖書朗読の担当者の席に着き、会堂管理者、通常なら「**レビ人**」が、当日の指定箇所を聖書朗読者である「**主**」に手渡しました。当時は、今日のように個人が聖書を所持する時代ではありませんでしたので、朗読者の読む聖書のことばに聴き入ったのです。

⇒「**ルカ4:21**」で、「(今)あなた達が聞いたこの聖書の言葉は、今日(ここで)成就した」と。

本論；

◇本日、ルカ福音書4章16～19節から主の使信に思い・心をとめます。

◆ルカ福音書4章16～19節；ルカは、主の朗読された箇所を記録しています。

◇4:16～30；塚本訳◆ナザレの礼拝堂における説教

「16 それからお育ちになったナザレに行って、安息の日にいつものとおり礼拝堂に入り、(聖書を)朗読しようとして立たれた。

17 (係の者から)イザヤの預言書が手渡され、その巻物をお開けになると、こう書いた所が出てきた。――

18 『主の御霊がわたしの上にある、油を注いで(聖別して)くださったからである。主は貧しい人に福音を伝えるためにわたしを遣わされた。囚人に赦免を、盲人に視力の回復を告げ、『押えつけられている者に自由をあたえ、』

19 『主の恵みの年(の来たこと)を告げさせるために。』』と、ルカは、記録しています。

⇒今日の箇所は、20～21節を省略します。

◇16～17節;「主イエス様」は、「お育ちになったナザレに行って」、「安息の日にいつものとおり礼拝堂に入り」、「(聖書を)朗読しようとして立たれた」、「(係の者から)イザヤの預言書が手渡され、その巻物をお開けになると、こう書いた所が出てきた」と、通常の礼拝をして、聖書朗読の奉仕をしようとしておられたようです。

⇒「**待降節の礼拝**」を守る私たちも、「**クリスマスのシーズン**」という特別の企画はありますが、通常に礼拝をしています。

⇒「**主**」は、ユダヤ人として、安息日である土曜日の礼拝を守られました。今日の教会が、日曜日に礼拝をするようになったのは、「**主**」が復活なさってからです。

⇒逆に、「**主**」が安息日の土曜日に礼拝されたので、土曜日に礼拝するのが、「**主**」のされたように生きることだと思い込む必要はありません。

⇒あの「**聖霊降臨の日**」、「**使徒たち外120名**」が、「**神の聖霊**」を受け、満たされた時から聖なる「**日**」として、日曜日を聖別したのです。

◇ 18～19節 ; 「『主の御霊がわたしの上にある、油を注いで(聖別して)くださったからである。主は貧しい人に福音を伝えるためにわたしを遣わされた。囚人に赦免を、盲人に視力の回復を告げ、』」、「『押えつけられている者に自由をあたえ、』」、「『主の恵みの年(の来たこと)を告げさせるために。』」と、イザヤ書1～2aの箇所でした。

⇒口語訳: 1 主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ、2a 主の恵みの年と。

⇒基本的には、南ユダの人々が、バビロンから解放されることへの「**よい知らせ=福音**」ですが、「**主イエス様ご自身**」が、この使信を朗読して下さることによって、「**教会**」の人々へも、罪の奴隷からの解放を告げる使信ともなっているのです。

⇒さらにイスラエルの人々には、解放を告げられる恵みの年は、**ヨベルの年**の告知でした。

- ⇒「**ヨベルの年**」は、50年毎に訪れる「解放年」で、奴隷も、失われた財産も、この日には、無条件で、元の所有者に返される年です。
- ⇒霊的ヨベルの年は、「**失われたいのちの回復**」です。罪人である私たちは、罪の奴隷ですから「滅びと死に至らせる罪」からの解放が無条件に与えられるのは、「**主の身代わりの死**」があつてのことなのです。
- ⇒「**クリスマスシーズン**」は、「**主の誕生**」をお祝いするのがメインですが、この誕生も、「**神が罪からの救いを実現する**」ために、「**主**」が人間となって、人の罪を背負って下さるためであつたことを思えば、「**霊的ヨベル年**」も、この時期に覚える大事な出来事と言えます。
- ⇒**WK師**の「置かれたところで咲なさい」は、WK師が召されて初めて、花咲くとは、WK師の死の土壌の上に美しい花を咲かせることも、WK師の**神信仰の後継者**の役割であることを思われます。
- ⇒**HS師**や庄原教会の礼拝を支えて生きて下さった多くの**神信仰の友の土壌**の上に花を咲かせる、「**ヨベルの年**」としたい。

## 結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇新約聖書の**ルカ福音書**は、**神の民の救い**を**神の福音**として告げた書です。

⇒「**待降節**」は、「**キリストの誕生**」を待ち望むという意味のことです。教会暦には、「**救い主イエス・キリスト様の地上生涯**」を記念することとともに、「1年の終わりと始め」の意味が含まれています。同時に、救い主の再臨を待望することも加えられ、地上の終わりと新天新地での新しい生活の始まりを意味します。

◇今日の聖書箇所、**ルカ福音書4:16~19**では、「**人の子・神の子主イエス様**」は、「**ナザレの会堂で安息の日にイザヤの預言書の巻物をお開けになり**」、「**ヨベルの年**」を示す、「『**主の御霊がわたしの上にある、油を注いで(聖別して)くださったからである。主は貧しい人に福音を伝えるためにわたしを遣わされた。囚人に赦免を、盲人に視力の回復を告げ、**』」、「『**押えつけられて いる者に自由をあたえ、**』」、「『**主の恵みの年(の来たこと)を告げさせるために。**』」が、朗読されました。

- ⇒「**待降節**」は、「**主の再臨**」を待望することも、含まれていました。
- ⇒今年の「**クリスマス**」、「**降誕節**」は、「**主の再臨**」を覚えて、過ごさせていただけますよ。
- ⇒「**人の子**」は、「**救い主**」を意味するのです。「**主の再臨**」も、「**天の御国への救い**」のためです。これを喜びましょう。
- ⇒『**主の御霊がわたしの上に ある、油を注いで(聖別して)くださったからである。主は貧しい人に福音を伝えるためにわたしを遣わされた。囚人に赦免を、盲人に視力の回復を告げ、**』、「**『主の恵みの年(の来たこと)を告げさせるために。』**」と、「**ヨベルの年**」を「**主**」が、イザヤ書61:1～2aの朗読を通して告げられた「**神の恵みの時**」でもあることを覚えたい。